

KSKS

わあ〜い

NO. 39 2019. 7. 12

shingakujuku2004@themis.ocn.ne.jp

<http://www.shinai.info>

編集人

社会福祉法人

心 愛

〒573-0146

枚方市大峰元町1丁目21-5

TEL 072-859-9194

FAX 072-859-9195



心学塾の新しいメンバーさんです！！

3 人とも個性豊か★

先輩たちも負けじと日々切磋琢磨しています。

理事長退任にあたって

前理事長 池永 満生

令和の時代になって私どもの法人も新しい幕開けです。私は 16 年前の法人設立以来、社会福祉法人心愛理事長を務めさせていただき、今日、お陰様で無事に理事長の任を終えることが出来ました。これもひとえに多くの皆様の支えがあったからこそと感謝の念でいっぱいです。

法人化を目指した大きな理由は、重度の知的障害を持つ長男を含めて全ての利用者が十分な支援のもとに、生き生きと過ごせる居場所（まずは建物と環境）を作ってやりたいと考えたからです。建物に関しては、高校・大学以来の知人で障害者施設の設計にも詳しい京都建築事務所の社長が採算を度外視して協力してくれたお陰で、立派な設計図と予算書が出来ました。これらをもとに志を同じくする仲間と共に国庫補助金等、(独)福祉医療機構からの借入金、自己資金の調達などの資金計画をたてて、厚労省に提出する法人設立申請書を完成させました。

法人化後も決して平坦な道のりではありませんでしたが、壁に直面する度に、その折々に応じて様々な方々から適切なご支援ご協力をいただき乗り切ることが出来ました。福祉の世界では人と人が支えあってこそ生きていけるのだという事を改めて教えられました。

機会があればいろいろな研修に参加し、目まぐるしく変わる（多くは改悪）福祉行政とそれに対する対応策を学んでいき、法人のこれからを見据えながら進んで来しました。

2006 年に障害者自立支援法が施行され、障害者福祉の分野でも経営の論理が前面に押し出されるようになりました。こうした国の方針にもめげず、設立当初は 11 名だった作業所の利用者也現在は 31 名に増え、グループホームも一か所から三か所に増設することが出来ました。

小さな法人でも世界の経済状況に無関係ではないことが 2008 年のリーマンショックの時に思い知らされました。当時内職をいただいていた知り合いの会社が閉鎖し、やむなくメンバーの工賃を下げざるを得ない時は本当につらく申し訳ない気持ちでした。こうした経験や応益負担に対する反対運動の成果から、決して政治から目を離してはならないと強く思いました。

以上、16 年に渡って、(1) どんなに障害が重い利用者であってもハートをもって接することで温かい居場所を提供すること、(2) 国の補助金を頂戴しているからには法人の事業運営費の執行状況を絶えずオープンにして適正かつ公正な支出管理を行うこと、を法人の理念として運営を行ってきました。

私自身、東京オリンピックまでは続けていくと決めていたものの、80 歳を過ぎた頃から法人運営に必須の素早い行動力が年相応に低下してくるのを痛感したため、残念ながらこの度退任させていただくことになりました。

次期理事長に就任して頂く藤澤秀治氏には、これまでも氏の枚方市障害福祉室室長時代から何かとお世話になってきたところです。新たな法人心愛のスタートに先立ち、変わっていく時代の波にのまれることなく、どんなに障害が重くても「共に生きる」という従来の法人の理念は変えることなく、これからの法人の経営に力を注いで頂きたいと切に念じています。

今後とも本法人ならびに後任の藤澤秀治理事長につきましても、変らぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新しく理事長に就任して

理事長 藤 澤 秀 治



この度、8期16年もの長きにわたって理事長を務められた池永満生氏に代わって理事長に就任しました。今年に入って、池永氏の体調が思わしくないとのことで「後任に」と依頼されましたが、法人運営の経験のほとんどない私には「とても務まらない」と固辞しました。しかし、結局は池永ご夫妻や森施設長ご夫妻の強い要請を断り切れず、後に続く若い人たちにバトンを渡せるまで務めさせてもらおうと決意しました。

私と社会福祉法人心愛とのかかわりは、16年前、市の障害福祉室長だった時のこと、市は厳しい財政事情の中で市内の無認可作業所に国や府の補助対象となる社会福祉法人格を得て運営基盤を確かなものにするよう勧めていました。法人格をとれるよう積極的に頑張っておられた池永前理事長とともに府庁へ何度も同行し、その結果、心愛は法人認可を受けることができました。

何人かのお母さんたちが集まって自主運営をしていた無認可の作業所が、国の認める法人になることには様々な厳しいハードルがありました。それらをクリアしていくには並大抵の苦勞でなかったと思いますが、社福法人に移行してもらわなければ市の単費補助は全面カットという方針でしたから、何としても移行してもらわなければならない。そうでなければ、明日から子どもたちの行き場所がなくなるという瀬戸際にありました。

池永前理事長を始め頑張っておられた皆さんの、そういう姿を見てきましたから、この度の理事長就任要請も、皆さんの総意ならお受けしなければならないと考えた次第です。

また、私が6年前に心愛の理事・評議員をお受けしたのは、前任の、今は亡き同志社大学の名誉教授だった小倉襄二先生の健康状態がすぐれず、その後任にということでした。小倉先生には、私がというより「枚方の福祉」が一方ならぬお世話になってきました。小倉先生がおられなかったら、枚方の福祉はどうなっていたかわかりません。その小倉先生がもし健在なら理事長をお受けになっただろうし、自分の健康が許さなかったら私に「お受けしてあげなさい」と言われるような気がしたからです。

しかし、初めにも申し上げたように、私には法人運営の実績や経験は全くと言っていいほどありません。試行錯誤を続けながらも、保護者の皆さんや後援会の皆さん、そして何よりも職員の皆さんの協力を得て、利用者の皆さんが毎日元気に、楽しく生活できる、そんな作業所、グループホームにしていきたいと思っています。

なにとぞ皆さんのご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

始めまして…

今年の 4 月からお世話になっております、平見美羽の母です。

美羽が心学塾作業所に通わせていただき、早くも丸 3 か月がたちました。ドキドキしながら送り出した初日からあっという間のような…長かったようにも感じます。美羽には広汎性発達障害と重度の知的障害があります。人と関わったり、お話しすることがとても好きです。でも、近づきすぎてしまったり、何か気になることがあるとうまく表現することが出来ず、粗暴な行為がでることもあります。心学塾では最初は調子良かったのですがGW前から不安定な日々が続きました。

最近少しずつですが、落ち着いてきたなと感じることもあり良い兆しが見えてきたように思っています。今は、お給料を貯めてU S Jへ行きたいと目標が出来ました。

好きな事は、ダンスやユーチューブでプリキュアを見たり、音楽を聴くことです。昨年の見学会でここ！と心に決めた心学塾に通うことが出来て嬉しく思っております。色々のご心配をおかけしてしまうかと思いますが、親子共々どうぞよろしくお願いいたします。(平見)



笑顔で報告

今年の4月から心学塾作業所でお世話になっています藤川貴渡の母です。

貴渡はダウン症があり自閉傾向が強く、発語はありますが言葉が不明瞭なため何を言っているのかわかってあげることができないことがよくあります。また筋力が弱く4歳まで歩くことができず、しっかりと歩けるようになったのは小学3年生の頃でした。

そんな貴渡ですが、今では大好きな嵐のDVDを見ながら一緒にダンスを踊り歌(?)を歌うことが大好きで毎日のように歌って踊っています。

私が仕事していたため生後4ヶ月から保育所に通い、地域の小学校で6年間、中高の6年間は支援学校でお世話になりました。思春期の頃から周りの様子に敏感になり、ちょっとした事でパニックになることがたびたびありこんな状態で受け入れてくれる作業所があるのか心配になった時期もありました。

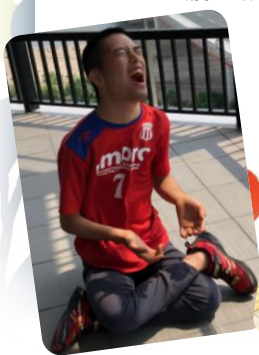
6年前に学校の施設見学会ではじめて心学塾を見学した時職員の方々の印象がよく、その後心学塾フェスタに家族で遊びに来た時も雰囲気がよく貴渡も楽しんでいたのでここでお世話になればいいなあと考えていました。

進路先を決めるまでに20カ所近く作業所を見学しましたが、やはり心学塾が一番貴渡にあっているのでは、と思い希望をだしました。夏の実習で不調だったため利用が決まるまではもしダメだったらどうしよう…と不安な日々で無事利用が決まった時は本当にほっとしました。

利用日初日『助手席じゃないと嫌だ!』と、迎えにきて下さった車に乗ろうとせずどうしようかと思いましたが、無理を言って助手席にらせていただき何とか出発しました。いつも助手席に乗っていたメンバーさんが席を譲って下さり、助手席が貴渡の席になり今では毎朝機嫌よく出かけるようになり席を譲ってくれたメンバーさんには感謝です。

新しい環境に慣れるのに時間がかかるタイプで、ご迷惑ばかりかけていますが貴渡のペースで温かく見守って下さり最近ようやく慣れてきたようです。家に帰ってきて『今日はこんな作業をしたよ』と笑顔で教えてくれる姿を見て、心学塾に入れて本当によかったなあと考えています。

ご迷惑をおかけすることも多いとは思いますが、心学塾作業所のために私たち親も協力していきたいと思っていますので、これから親子共々どうぞよろしくお願いいたします。(藤川)



あったかホーム

心愛には、3つのグループホームがあります。障がいの重さに関係なく、生活する場としてそれぞれ3人から4人のメンバーさんが暮らしています。最もグループホームでの生活を必要とされている方から利用してもらいたいと考えています。日常の障がい特性を理解し、“1番時間がかかる人”からグループホームにという理念をある方から聞かせて頂き、私どももそれを大事にしたいと思っています。

4月から利用されている平見さんの夢は、将来はグループホームで生活したいというものでした。支援校からの引継ぎで本人の強いグループホームへの希望を感じました。「だん暖楽しみ。」と利用が始まる前から何度も職員に訴えておられました。今回、新メンバーの入居が決定し、すでに暮らしていた他のグループホームのメンバーさん同士の関係性なども色々と検討し、よりみんなが気持ちよく過ごせる場所を目指して、2つのグループホーム間でメンバーの入れ替えを考え、3人の引っ越しが決まりました。

長年暮らした場所を離れることに、本人・保護者の方は初めは抵抗を感じたり、不安に感じたと思います。私なら、違う家に引っ越しとなると楽しみに感じますが、メンバーさんにとってはそんな、簡単な事ではないのです。環境の変化がどれだけ本人にとっては、しんどいものか…。慣れた場所や世話人さんから離れることは、きつととても辛いものだと思います。その為、中々引っ越しの返事に関しては「喜んで!!」というものではありませんでした。ですが、色々と考え、悩んで将来のことを思い3人の保護者の方は引っ越しを決断してくださいました。7月からスタートしました。何かしらの反応がこれからあるかもしれませんが、しっかり見守って、支援し、安心して暮らせる場となるように、グループホーム職員と作業所の職員で共に頑張りたいと思います。(渡加)



『ハイエース 1 号車』が新車になりました！

送迎車として長い間活躍してきた『赤ハイエース 1 号車』が走行面や安全面の不安などから買い替えの時期を迎えました。大きな出費ではありましたが、みなさんの安全を考慮してバックモニターのついた新車が5月末に納車されました。

朝夕の送迎だけでなく、日中活動や余暇活動でも大切に使いましょう。

こんな声が聞こえてきました

なんと言ってもきれいだ！
大切にしないとなあ

新車だから傷つけないようにと
今までより緊張感いっぱい運転
してますよ

新車できれいけど臭いが気になるなあ

運転しやすくなって急発進が少
なくなったよ。安全運転第一ですよ！

とてもシートベルトが
しやすくなりました

くずはコース専用になったので乗
るのに迷わなくなってうれしい！

運転手さんも新車になって
一段と洗車に力がはいっています



寄付金をいただきました。

紙面をお借りして心より御礼申し上げます。(敬称略・順不同)

2018 年 12 月 10 日～2019 年 7 月 10 日

谷本榮子／ 藤本節子／ 馬渕智生／ 斉藤青島子／ 嶋津 徹／ 松尾雅子／ 松本則雄／
池永満生／ 伊瀬知宣朗／ 小林洋子／ 山田義明／ 高橋篤世／ 橋本宣次／ 武田美鈴／
寺本専助／ 岩崎 都／ 真行寺京子／ 森 泰夫／ 野村英隆・嘉壽子

新メンバーにインタビュー

1 月 16 日より心学塾作業所の就労継続支援 B 型で活躍中の林さんです。一見大人しそうに見える彼女。実は意外な一面の持ち主!! 初めて一緒に参加したイベントでキレキレに踊りながら後ろで困っている仲間に、すかさず声をかけている彼女の姿を見て、職員は、みんな驚きを隠せない様子でした。 そんな林さんにちょっと聞いてみました。

質問に答えて頂ければ嬉しいです、お願いします。

☆心学塾にはじめてきた時の気持ちは?

出来るかどうかわからなかったです

☆仕事はたのしいですか?

はい

☆仕事のどんなところが楽しいですか?

みんなと一緒に出来る所です

☆就 B のメンバーさん達となかよくなれましたか?

はい

☆だれと一番なかよくなれましたか?

だれと一番しか そうですのはまだわかりません

☆心学塾はたのしいですか?

はい

☆これからやってみたい事、なれたらいいなと思う事がありますか?

みんなと一緒に新しいクッキーを考えたいです

8・9月の予定

8/3 (土) 余暇活動

8/10 (土) 余暇活動

8/11 (日) 夏季休み

(8/18 まで)

8/31 (土) 余暇活動

9/14 (土) 余暇活動

9/26 (木) 一泊旅行

9/27 (金) 一泊旅行

お母さんからも…

4 月からお世話になります林と申します。ずいぶん以前に就労 B の職員として勤めさせて頂いておりましたが、この度事務所の方でお仕事をさせて頂く事になりました。久々の作業所内はメンバーさんの元気な声と温かな空気が流れていて、きっと職員さんお一人おひとりのメンバーさんへの思いがこの空気をもし出しているのだなあと感じました。そんな心学塾作業所に長女も 1 月からお世話になっております。毎朝、安定した気持ちで登所する娘を送り出すことができ、親としてもとても感謝しています。今後も微力ですが、作業所の大切な一日が円滑に進むよう仕事に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。(林)

●編集後記●

約 9 年間この『わあ〜い』の編集に関わらせていただきました。一年に 2 回の発行は間が長いようで短く、編集が始まると、「ああもうこの季節が来たんだな。」と思うことが多くありました。前期は 7 月、後期は 12 月。私にとっては季節を感じられるものの一つでした。2019 年もあと半分。悔いの残らないような一年にしたいと思います (南出・渡加)